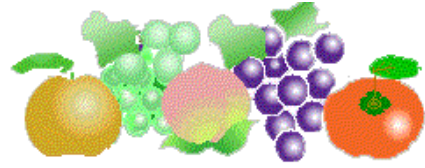


令和4年度 しらかわ果樹情報第5号



令和4年7月 日
福島県県南農林事務所農業振興普及部

1 気象概況（表1）

5月4半旬から7月1半旬までの平均気温は19.4℃で平年より0.9℃高くなりました。また、この期間の降水量合計は252.5mmで平年の98.1%でしたが、特に梅雨期（6月中・下旬）の降水量は平年に比べて大変少なくなりました（表1 □カ所）。日照時間の合計は257.1時間で平年の106.1%となりました。

表1 月別気象表（白河市）

平年：1981～2010年

月	半旬	平均気温（℃）			最高気温（℃）			最低気温（℃）			降水量（mm）			日照時間（hr）		
		本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比（%）	本年	平年	平年比（%）
5	4	15.4	15.7	-0.3	20.4	21.3	-0.9	9.9	10.5	-0.6	9.0	21.0	43	26.3	29.4	89
	5	16.3	16.5	-0.2	21.4	22.2	-0.8	12.2	11.4	0.8	9.0	22.2	41	22.9	30.2	76
	6	18.1	17.2	0.9	23.0	22.9	0.1	13.4	12.2	1.2	69.0	24.0	288	41.2	35.9	115
6	1	17.1	17.8	-0.7	23.5	23.2	0.3	11.8	12.9	-1.1	31.5	17.7	178	34.1	28.4	120
	2	13.9	18.2	-4.3	16.6	23.4	-6.8	12.0	13.9	-1.9	67.5	19.7	343	2.7	24.7	11
	3	16.4	18.8	-2.4	20.4	23.7	-3.3	13.3	14.8	-1.5	21.5	24.3	88	12.8	21.5	59.5
	4	21.5	19.4	2.1	27.2	24.1	3.1	16.6	15.6	1.0	8.5	28.4	30	19.7	19.5	101
	5	22.7	20.0	2.7	27.3	24.5	2.8	19.1	16.3	2.8	5.5	30.8	18	16.7	17.8	93.8
	6	26.4	20.7	5.7	32.4	25.2	7.2	21.1	17.1	4.0	4.0	32.7	12	40.7	17.2	237
7	1	26.4	21.4	5.0	32.8	25.9	6.9	21.5	17.9	3.6	27.0	36.7	74	40.0	17.8	225
平均・合計		19.4	18.6	0.9	24.5	23.6	0.9	15.1	14.3	0.8	252.5	257.5	98.1	257.1	242.4	106.1

2 向こう1か月の天候の見通し（7月2日から7月29日まで）

向こう1か月の気温は高く、特に期間の前半はかなり高くなる可能性があります。前線や湿った空気の影響を受けにくい時期があるため、向こう一ヶ月の日照時間は平年並か多い見込みです。週別の気温は、1週目（7/2～7/8）は高い確率が80%、2週目（7/9～7/15）は高い確率が60%、3～4週目（7/16～7/29）は平年並か高い確率が40%です。

3 生育概況：果実肥大（白河地方）

満開後日数比較では、「幸水」ではやや小さく、その他の品種は平年並の状況です。

表2 白河管内の各品目の果実肥大状況（7月1日時点）

	あかつき		幸水		豊水		ふじ	
	縦径	側径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径
今年(mm)	46.4	45.2	29.6	34.1	32.0	34.0	41.3	44.7
平年(mm)	45.3	42.5	31.1	35.6	31.0	32.9	40.1	42.8
平年比(%)	103	106	95	96	103	103	103	104
昨年(mm)	57.5	59.8	31.1	35.1	31.5	34.7	41.2	46.0

注) 調査地点：「あかつき」「幸水」「豊水」は白河市東上野出島、「ふじ」は白河市本沼

4 栽培上の留意点

(1) ひょう害対策（※事前・被害後対策はしらかわ果樹情報第4号参照）

6月2日、3日のひょうで県内各地で被害が出ています。今後もひょうが降る可能性は十分あります。ひょうは①**大気の状態が不安定になり**②**積乱雲が発達したとき**に降りやすいです。また、降ひょうがあった場合は、被害の程度に応じた着果管理や新梢管理を適切に行い、生育の回復に努めることとなります。

着果量は果実や新梢、葉の損傷程度から判断します。被害程度が軽い場合は、摘果を強く行くと樹勢が強くなるため、被害程度の軽い果実は適宜残して、樹勢の調節を図ります。

(2) 共通

ア **かん水（梅雨期の降水量が少なかったため、土壤水分の把握に努めましょう！）**

5月から夏期にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度のため、1回のかん水は25～30mm程度（10a当たり25～30t）を目安とし、5～7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くしましょう。

イ 草刈り、マルチ

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行いましょう（地表面からの蒸発散量は、草生園において刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされます）。また、稲わらのマルチを行い、土壤水分の保持に努めましょう。

(3) モモ

ア **早生品種の収穫**

- ・今年には核や胚に障害を持つ果実が多い。これらは**成熟が早まりやすい傾向にある**ため、**果肉の軟化に注意し、収穫が遅れないように留意する。**

イ **修正摘果**

- ・肥大不良果や変形果、**核に障害をもった果実**などが徐々に目立ってきている。
- ・収穫を控えた中生品種の修正摘果は数回に分けて丁寧に実施する。核や胚に障害があることが多い果実（**果頂部が変形している、縫合線が深い、果面からヤニが噴出している、果皮の一部が変色している、極端に肥大が早い、果頂部の着色が早い**）に注意して摘果する。

ウ **中生品種の収穫前管理**

- ・収穫期は地域によって差があることから、果樹研究所との平年の生育の差を考慮するとともに園地ごとの成熟状況を確認して収穫期を判断する。
- ・核障害の発生が多い場合には、**核や胚に障害を持つ果実は早熟する傾向にある。**
- ・「あかつき」等中生種は今月上～中旬頃から着色期に入るため、**夏季せん定、支柱立てや枝吊り、反射シートの設置**など収穫前の管理が遅れないよう計画的に実施する。また、降雨により**園内に停滞水がみられる場合は、明きょを掘る**など速やかな排水に心がける。

(4) ナシ

ア 新梢管理

- ・「幸水」では、腋花芽着生向上を目的として新梢誘引を実施する場合、新梢生長が停止する前に予備枝誘引作業を完了する必要がある。まだ終わっていない場合は急いで進める。
- ・新梢誘引は樹冠内の光条件を改善するとともに、薬剤防除の散布むらを減らし、翌春における長果枝棚付け作業の効率化も期待できるので「幸水」以外の品種でも積極的に実施する。

イ 着果管理

- ・裂果が観察される時期は他の果実の裂果発生を助長するおそれがあるので摘果を控え、裂果が収束（満開後90日頃、**白河地方では7月20日頃**）したら修正摘果を実施する。

(5) リンゴ

ア 修正摘果

- ・果実肥大や果形、障害の有無等の区別がつきやすい時期なので、**小玉果、変形果、病害虫被害果、サビ果を中心に修正摘果を実施する。**
- ・特に、霜害を受けて摘果を遅らせていた園地では、仕上げ摘果実施後でも新梢の伸びや葉数に注意し、適正着果となるよう修正摘果を実施する。

イ 枝吊り・支柱立て

- ・果実肥大に伴い枝が下垂するので、樹冠内部の日当たり改善と枝折れ防止のため行う。
- ・高温条件下では、果実に直射日光が当たると日焼け果が発生しやすくなるため、果実が果そう葉で隠れるようにするなど着果位置に留意する。

(6) ブドウ

ア 着房数管理

- ・着房過多は、糖度上昇の遅れや赤熟れ果の発生の要因となる。また、**耐寒性の低下や翌年の発芽不良、樹勢の低下などにも影響することから、ベレーゾン（水回り）期までに着房数を見直し、適正着果量に調整する。**
- ・最終着房数の目安は「巨峰」では3.3m²当たり9～10房、「高尾」では10～11房とし、樹勢や今後の天候の推移をみながら適宜調整を行う。
- ・特に、**夏季に低温・日照不足が続く場合には、着房数の制限が必要である。**

イ 袋かけ・カサかけ

- ・摘粒作業が終わりしだい薬剤散布を行い、袋かけ・カサかけを実施する。病害虫防除や果実の汚れ防止、日焼け防止のために重要である。
- ・使用した枚数を把握し着果量調整の目安とする。**棚面が明るい部分では果房に直接強い日光が当たり、日焼けなどの高温障害を引き起こすため、遮光率が高いカサの利用や直射日光が当たらないように新梢の誘引を見直す。**

5 病害虫防除上の留意点

(収穫期に入っているため、薬剤防除は収穫前日数に十分注意しましょう！)

(1) 病害 (令和4年6月30日付け病害虫発生予察情報・発生予報第3号参照)

ア ナシ黒星病、輪紋病

- ・6月下旬の中通りにおけるナシ黒星病の果実での発生ほ場割合は平年よりやや高い状況にあるため、罹病部位は**見つけしだい取り除く**など、耕種的防除を徹底する。
- ・特に、「幸水」では満開後50日頃から本病に対する果実の感受性が高まり、**重要防除時期**となるため、**防除対策を徹底する**。
- ・罹病部位は**見つけしだい除去して適切に処分**するとともに、輪紋病も重点防除期になるため、7月上旬及び中旬に両病害に効果がある殺菌剤を十分量散布する。

イ モモせん孔細菌病

- ・6月下旬における新梢葉での発生ほ場割合は中通り全域で平年並であるが、**今後の気象によっては発生が増加するおそれがあるため引き続き注意が必要である**。
- ・罹病部は**二次伝染源**となるため、**見つけしだいせん除して適切に処分**するなど、耕種的防除を徹底する。

ウ リンゴ褐斑病、輪紋病

- ・6月下旬における新梢葉及び果そう葉でのリンゴ褐斑病の発生は確認されなかったが、昨年秋季の新梢葉での発生ほ場割合は平年より高く、発生程度の高い園地も見られ、本病の越冬量は多かったと推察されている。
- ・**果実、枝梢部ともに感受性が高い時期**となるため、防除暦に従い、7月中に**いずれの病害にも効果がある薬剤を十分量散布**し、降雨前の薬剤散布を徹底する。

エ ブドウ晩腐病

- ・袋かけ前、7月上旬までにストロビードライフロアブル 2,000倍を散布していない場合は、速やかに散布を行い、袋かけを行う。また、有核栽培では、摘粒作業が終わりしだい今回の防除を行う。

(2) 虫害 ※表3・4参照、時期は果樹研究所における推定

ア モモハモグリガ

- ・第4世代の防除適期は**気温が2度高く推移した場合、7月4半旬頃**と推定(表3)。
- ・本種の発生は、放任園や無防除のハナモモ等が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣にある園地では、今後も発生に注意する。

イ ナシヒメシンクイ

- ・ナシヒメシンクイ第3世代の防除適期は、**気温が2度高く推移した場合、7月5半旬頃**であると推定される(表4)。本種はモモ等の核果類の新梢伸長が停止するとナシ果実への寄生が増加する。例年、ナシの果実被害が多い地域では、第2世代以降の防除を徹底する。

ウ モモノゴマダラノメイガ

- ・本種の被害が予想されるモモ園では、**7月2半旬頃までの防除を重視**する。
- ・被害果実は見つけしだい摘除して5日間以上水漬けするか、土中深く埋める。

エ ハダニ類

- ・高温が続く場合は**ハダニ類の急増に注意し、殺ダニ剤の散布は草刈り直後**に行う。要防除水準(1葉当たり雌成虫1頭以上)の密度になったら速やかに防除を行う。

表3：果樹研究所における防除時期の推定（令和4年7月1日現在）

今後の気温予測	モモハモグリガ			
	第2世代 誘殺盛期	第3世代 防除適期	第3世代 誘殺盛期	第4世代 防除適期
2℃高い	6月26日	6月30日	7月16日	7月20日
平年並	6月26日	6月30日	7月18日	7月22日
2℃低い	6月26日	6月30日	7月20日	7月25日

注) 起算日：モモハモグリガ第2世代5月28日、第3世代6月26日（演算方法は三角法）

表4：果樹研究所における防除時期の推定（令和4年7月1日現在）

今後の気温予測	ナシヒメシンクイ			
	第1世代 誘殺盛期	第2世代 防除適期	第2世代 誘殺盛期	第3世代 防除適期
2℃高い	6月22日	6月29日	7月19日	7月25日
平年並	6月22日	6月29日	7月22日	7月29日
2℃低い	6月22日	6月29日	7月25日	8月2日

注) 起算日：ナシヒメシンクイ第1世代4月25日、第2世代6月22日（演算方法は三角法）

6 生育調査結果（7月1日現在、果樹研究所）

(1) モモ

<p>ア 新梢生長（満開後79日）（表5）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「あかつき」の新梢長は平年比143%、展葉数は平年比111%、葉色は平年比90%。 「ゆうぞら」は、新梢長が平年比105%、展葉数は平年比99%、葉色は平年比92%。 新梢停止率は「あかつき」で平年比66%、「ゆうぞら」で平年比62%。
<p>イ 核障害の発生（満開後75日）（表6）</p> <ul style="list-style-type: none"> 「あかつき」の核障害発生率は25.0%（平年42.9%）であるが、縫合面割裂は55.0%（平年21.9%）と平年に比べ多くなっている。
<p>ウ 発育予測</p> <ul style="list-style-type: none"> DVRモデルによる「あかつき」の発育予測では、今後の気温が平年並に推移した場合、収穫開始日は7月30日頃、収穫盛期日は8月3日頃で平年より1日早い見込みである。 白河地方の生育に当てはめると、収穫開始日は7月31日頃、収穫盛期日は8月4日頃で平年より4日早いと推測される。

表5 モモの新梢伸長（開花後79日）

品種	新梢長 (cm)			展葉数			葉色 (SPAD)			新梢停止率 (%)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
あかつき	19.2	13.4	143	17.2	15.5	111	39.1	43.5	90	57.5	86.5	66
ゆうぞら	15.8	15.0	105	15.0	15.1	99	40.7	44.1	92	52.5	84.5	62

注) 平年は、1996～2020年

表6 モモの核障害発生状況（品種：あかつき）

年	満開後日数	30日	45日	50日	55日	60日	65日	70日	75日	85日	95日	収穫果
2022	核頂部亀裂	20.0	45.0	5.0	55.0	35.0	45.0	30.0	25.0	-	-	-
	縫合面割裂	0	0	0	5.0	10.0	45.0	50.0	55.0	-	-	-
2000	核頂部亀裂	35.1	37.1	45.5	51.9	53.3	50.7	49.1	42.9	48.1	49.3	48.8
～2020	縫合面割裂	0	0	1.7	2.4	11.4	22.1	23.0	21.9	32.6	36.8	24.6

(1) ナシ

ア 新梢生長（満開後70日）

- ・「幸水」の予備枝新梢長は104.9cm（平年比96%）、不定芽新梢長は100.5cm（平年比106%）、予備枝新梢の葉枚数は27.5枚（平年比93%）。
- ・「豊水」の予備枝新梢長は86.6cm（平年比83%）、不定芽新梢長は84.3cm（平年比96%）、予備枝新梢の葉枚数は24.4枚（平年比87%）。

イ 生育予測（6月30日現在）

- ・DVRモデルによる「幸水」の裂果期予測は、近日中の見込みであり、DVRモデルによる収穫盛期の予測は、8月26日頃で平年より3日早い見込み。
- ・**白河地方の生育に当てはめると、「幸水」の裂果期は近日中の見込み、収穫盛期は8月26日頃で平年より6日早いと推測される。**

(2) リンゴ

ア 新梢生長（満開後50日）

- ・新梢長は、「つがる」が22.9cm（平年比107%）、「ふじ」が24.0cm（平年比120%）で平年より長い。新梢停止率は、「つがる」「ふじ」とともに100.0%であり昨年と同様であった。

(4) ブドウ

ア 新梢生長（発芽後70日）

- ・「巨峰」の新梢長は96.7cmで平年比71%、展葉数は16.8枚で平年比91%であった。

イ 開花状況

- ・開花始めは、「巨峰」が6月1日（平年－2日）、「あづましずく」が5月31日（平年－4日）、「シャインマスカット」が6月6日（平年－1日）。
- ・満開は「巨峰」が6月11日（平年＋3日）、「あづましずく」が6月4日（平年－5日）、「シャインマスカット」が6月15日（平年＋4日）。